



2023年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年3月6日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL https://www.asukanet.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 雄司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 2023年3月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第3四半期の業績 (2022年5月1日~2023年1月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第3四半期	5,200	10.9	483	30.8	497	32.9	349	33.2
2022年4月期第3四半期	4,688	11.9	369	162.6	374	95.7	262	107.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円	銭	円	銭				
2023年4月期第3四半期	20	93	—	—				
2022年4月期第3四半期	15	55	—	—				

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第3四半期	6,846	6,069	88.6
2022年4月期	6,896	6,020	87.3

(参考) 自己資本 2023年4月期第3四半期 6,069百万円 2022年4月期 6,020百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00	7.00
2023年4月期	—	0.00	—	—	—	—
2023年4月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年4月期の業績予想 (2022年5月1日~2023年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	7,000	10.6	640	45.5	670	48.0	470	41.2	28	16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料6ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料6ページ「会計方針の変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年4月期3Q	17,464,000株	2022年4月期	17,464,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年4月期3Q	842,257株	2022年4月期	657,657株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年4月期3Q	16,688,269株	2022年4月期3Q	16,852,977株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症にかかる行動制限が解除されるなど、経済活動の正常化が進む一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による国際情勢の不安定化、また、円安の進行や原材料価格の高騰、物価上昇による個人消費への影響が懸念されるなど、先行きは極めて不透明な状況となっております。

このような環境の中、当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するフューネラル事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するフォトブック事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指す空中ディスプレイ事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

また、2022年12月には、ウェディング市場向けのDXサービスを展開するスタートアップ企業である株式会社リクシィと資本業務提携を行いました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおりません。

(フューネラル事業)

当事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大により葬儀の小型化が継続しているものの、葬儀の施行自体はほぼ正常化しております。葬儀社との新規契約獲得が順調であり、また、既存顧客のシステム機器買替需要が旺盛であったことに加え、全国的に葬儀施行件数が増加した結果、主力の遺影写真加工収入をはじめ、ハード機器売上、額やペーパーなどのサプライ品売上いずれも順調に増加いたしました。葬儀業界向けDXサービスである「tsunagoo」は、機能の継続的な改善やオンラインセミナーの実施などその拡販に努めてまいりました。

利益面につきましては、人員不足となっております画像処理部門を中心に積極的に採用を進めたほか、採用関連費用や旅費交通費が増加したものの、売上増加の貢献が大きく、セグメント利益は増加いたしました。

その結果、売上高は2,343,744千円（前年同四半期比116.1%）、セグメント利益は575,896千円（前年同四半期比111.3%）となりました。

(フォトブック事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場では「アスカブック」、一般消費者向け市場では「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真をもとにフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、主力であるウェディング向け写真集は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は多少残っているものの、遅れていた大都市圏も含め全国的に回復してきております。また、製品ラインナップを充実させております写真スタジオ向け売上も好調に推移したため、プロフェッショナル写真家向け市場の売上は想定を上回って推移いたしました。プロフェッショナル写真家向け写真集ブランドである「アスカブック」20周年記念として開催した「第8回等身大フォトアワード」「ペットの等身大フォトアワード」「アルバムデザインアワード」の審査や表彰式を行いました。

一般消費者向け市場では、海外旅行や各種イベントの制限的開催、マスク着用の常態化による撮影機会減少が継続しているなど厳しい事業環境となっているため、OEMは売上減少傾向が継続しておりますが、自社ブランド「マイブック」は回復傾向が見られております。このような厳しい状況ではありますが、各種キャンペーンの実施や新しいサービスである「マイブック年賀状」への取組み、季節商品となるカレンダーや卒業アルバムのプロモーションを進めてまいりました。

その結果、一般消費者向け市場は厳しかったものの、プロフェッショナル写真家向け売上が好調だったため、売上を着実に増加させることができました。

利益面につきましては、材料費や水道光熱費など各種値上げによりコストアップとなりましたが、生産体制の効率的運営や稼働率の回復により、セグメント利益は増加いたしました。

その結果、売上高は2,733,237千円（前年同四半期比107.2%）、セグメント利益は583,290千円（前年同四半期比119.5%）となりました。

(空中ディスプレイ事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指しており、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれ開発、製造、販売しております。

営業面につきましては、国内は自社営業を主として、海外は代理店を主として販売を進めております。国内外において、沖縄の首里杜館やトルコの病院施設など設置実績を重ねてまいりましたが、中東地域の大型サイネージ案件では設置環境の問題等から受注が叶わなかったケースが生じました。また、店頭での決済端末活用などの有力な実証実験案件は当社で可能な限りのサポートは行っておりますが、一定の時間を要している状況です。中国市場を除き、営業活動は正常化しつつあり、本年1月には世界最大級のIT展示会「CES2023」に北米代理店と共同出展し、ASKA3Dプレートを使用した空中ディスプレイの持つ近未来感やエンターテインメント性を高く評価いただきました。

製造・開発面では、ガラス製、樹脂製とも外製による生産の安定や大型化への取組みを進めており、成果をあげております。自社技術開発センターでは、中型のガラス製プレートの製造に開発テーマを絞り込んでおり、ベースとなる小型プレートの精度向上とつなぎ合わせ技術の確立という生産上の課題解決に取り組んでおります。まだ量産試作段階にまでは至っていないものの、今期中には代理店向けに試作品を販売する予定となっております。

売上につきましては、主にサイネージ向けのガラス製ASKA3Dプレートの販売や製造に必要な金型の売上が発生したため、売上高は前年同四半期実績を上回りました。

費用面では、展示会出展の増加により広告宣伝費が増加し、また、営業活動の活性化により旅費交通費が増加したものの、研究開発テーマの絞り込みによる研究開発費のコントロールなどにより、セグメント損失は前年同四半期に比べ縮小しました。

その結果、売上高は128,579千円（前年同四半期比106.3%）、セグメント損失は224,894千円（前年同四半期は238,835千円の損失）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は5,200,977千円（前年同四半期比110.9%）となりました。利益面につきましては、主にフェーネラル事業及びフォトブック事業においてセグメント利益が増加したことにより、経常利益は497,398千円（前年同四半期比132.9%）、四半期純利益は349,232千円（前年同四半期比133.2%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ49,872千円減少し、6,846,362千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が129,472千円、商品及び製品が154,708千円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が347,585千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ98,129千円減少し、777,319千円となりました。これは主に、未払法人税等が43,800千円、賞与引当金が60,320千円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ48,257千円増加し、6,069,043千円となりました。これは主に、剰余金の配当による減少117,644千円、自己株式の増加189,465千円があった一方で、四半期純利益を349,232千円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月期業績予想につきましては、本日別途開示いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※業績予想は、本資料公表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年4月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,999,178	1,651,592
受取手形及び売掛金	836,041	965,513
商品及び製品	304,090	458,799
仕掛品	169,022	197,173
原材料及び貯蔵品	84,426	82,836
その他	43,589	45,954
貸倒引当金	△2,810	△3,594
流動資産合計	3,433,537	3,398,274
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	906,630	885,102
機械及び装置(純額)	522,592	457,051
土地	844,060	844,060
その他(純額)	183,767	188,709
有形固定資産合計	2,457,050	2,374,924
無形固定資産	208,440	225,435
投資その他の資産		
投資有価証券	587,437	634,317
その他	209,768	213,410
投資その他の資産合計	797,206	847,728
固定資産合計	3,462,698	3,448,088
資産合計	6,896,235	6,846,362
負債の部		
流動負債		
買掛金	182,892	195,146
未払金	197,458	159,513
未払法人税等	131,400	87,600
賞与引当金	161,620	101,300
その他	191,216	223,975
流動負債合計	864,587	767,535
固定負債		
退職給付引当金	5,351	5,351
その他	5,510	4,432
固定負債合計	10,862	9,784
負債合計	875,449	777,319
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	619,556	624,486
利益剰余金	5,196,424	5,428,012
自己株式	△298,392	△487,857
株主資本合計	6,007,889	6,054,941
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,896	14,101
評価・換算差額等合計	12,896	14,101
純資産合計	6,020,785	6,069,043
負債純資産合計	6,896,235	6,846,362

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年5月1日 至2022年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年5月1日 至2023年1月31日)
売上高	4,688,999	5,200,977
売上原価	2,422,870	2,731,498
売上総利益	2,266,128	2,469,478
販売費及び一般管理費	1,896,687	1,986,413
営業利益	369,441	483,065
営業外収益		
受取利息	429	1,889
受取配当金	1,200	1,275
受取手数料	239	250
助成金収入	—	5,727
為替差益	1,660	849
未払配当金除斥益	1,007	742
その他	476	4,186
営業外収益合計	5,013	14,920
営業外費用		
自己株式取得費用	116	587
営業外費用合計	116	587
経常利益	374,338	497,398
特別損失		
固定資産売却損	708	—
固定資産除却損	316	0
特別損失合計	1,024	0
税引前四半期純利益	373,313	497,398
法人税等	111,192	148,165
四半期純利益	262,120	349,232

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

当第3四半期累計期間
(自 2022年5月1日
至 2023年1月31日)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2021年5月1日 至 2022年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,018,409	2,549,709	120,881	4,688,999	—	4,688,999
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	54	54	△54	—
計	2,018,409	2,549,709	120,935	4,689,053	△54	4,688,999
セグメント利益 又は損失 (△)	517,234	488,081	△238,835	766,479	△397,038	369,441

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△397,038千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自 2022年5月1日 至 2023年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,343,744	2,728,653	128,579	5,200,977	—	5,200,977
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	4,584	—	4,584	△4,584	—
計	2,343,744	2,733,237	128,579	5,205,561	△4,584	5,200,977
セグメント利益 又は損失 (△)	575,896	583,290	△224,894	934,291	△451,226	483,065

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△451,226千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。